

令和7年度 にじいろこども園の取り組みと評価

～今年度のふり返りと来年度に向けて～

保護者の皆さま、今年度もあたたかいご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。
にじいろこども園が開園して1年。子どもたちは毎日いきいきと過ごし、たくさんの成長が見られました。
その様子や園として取り組んできたこと、そして来年度に向けて大切にしたいことをまとめたものをお伝えさせていただきます。

◆ 1. 今年度の子どもたちの様子

○今年度は「思わずやってみたくなる環境づくり ～一人一人の“好き”が光る場所～」をテーマに、環境づくりに力を入れてきました。クラスの枠をこえ、子どもが「好きな遊び」を「好きな場所」でじっくり楽しめるよう、職員みんなで保育室や廊下などの環境を見直した結果、子どもたちは安心して活動の幅を広げ、自分の好きな遊びを深め、友だちと関わりながら楽しく過ごす姿が増えてきました。

○みんなにとって安心して過ごすことができる心地よい園をめざして、多文化共生や医療的ケア児について学ぶ研修を重ね、職員の理解を深めました。また、小学校と連携し、ポルトガル語のミニ講座に参加したり、休み時間の交流や体育祭の見学に行ったりして、自然な関わりが広がってきました。保健師・カウンセラー・訪問支援員など外部の専門家と協力しながら、子ども一人一人の育ちに寄り添うことができました。その影響もあって、子ども同士でも思いやりやよさを認め合う姿が見られるようになっていきます。

こうした取り組みにより、子どもたちが安心して活動を広げ、「やってみたい!」の気持ちが育つ姿が多く見られました。



◆ 2. 地域・保護者の皆さまとのつながり

○今年度は保護者の方からのご提案で、みんなで梅ジュースづくりに挑戦しました。梅の下処理や香りを楽しむ体験は、五感をつかった貴重な時間となりました。



○畑のお手伝いをしてくださった地域の方を招いて、一緒に育てた野菜を使った料理を食べる機会もあり、地域の温かさにふれながら、食の大切さを学ぶ時間となりました。



◆ 3. 園として感じた課題

今年度のふり返りの中で、次のような課題も見えてきました。

○保育者が子ども達の思いに寄り添いながら、ねらいや願いをもって教育・保育に取り組むために、計画から実践までを職員間で話し合う時間を十分にもつことが大切だと考えています。

○日常の保育において、危険の予測や安全確認に対する意識を高めていく必要があります。危険発生時の即時対応や予防的視点が不十分だと感じています。



○一人一人の特性や個性を十分に理解しながら、一人一人の多様性を尊重する教育・保育を進めていくことができるよう、インクルーシブ保育の意識をさらに深める必要があると感じています。



◆ 4. 来年度に向けて大切にしたいこと

○主体的な遊びや学びに向かう力を育むために、自園の特色に沿った計画の作成を職員間で行い、その計画に基づいた教育・保育の充実に向けて、職員同士の情報共有や共通理解に努めていきます。

○子どもの安全を守る力を高めていくため、「もし今〇〇が起きたら？」と考える習慣を職員全員で意識します。また、避難訓練のふり返りやロールプレイを続け、危険を予測する力を育てていきます。

○子どもの“強み”を大切にしたい関わりをするために、「できない面」よりも「その子らしい良さ」に目を向けた教育・保育を心がけます。

また、専門機関や保護者の皆様との協力も深めていきます。



◆ 最後に

保護者の皆さまのお力添えのおかげで、子どもたちは安心して園生活を楽しむことができました。

来年度も子どもたちが自分らしく輝けるよう職員一同努めてまいります。

どうぞよろしくお願いいたします。

